

我が国周辺における ロシア軍の動向について

令和7年4月
防衛省



ロシア軍の兵力及び予算

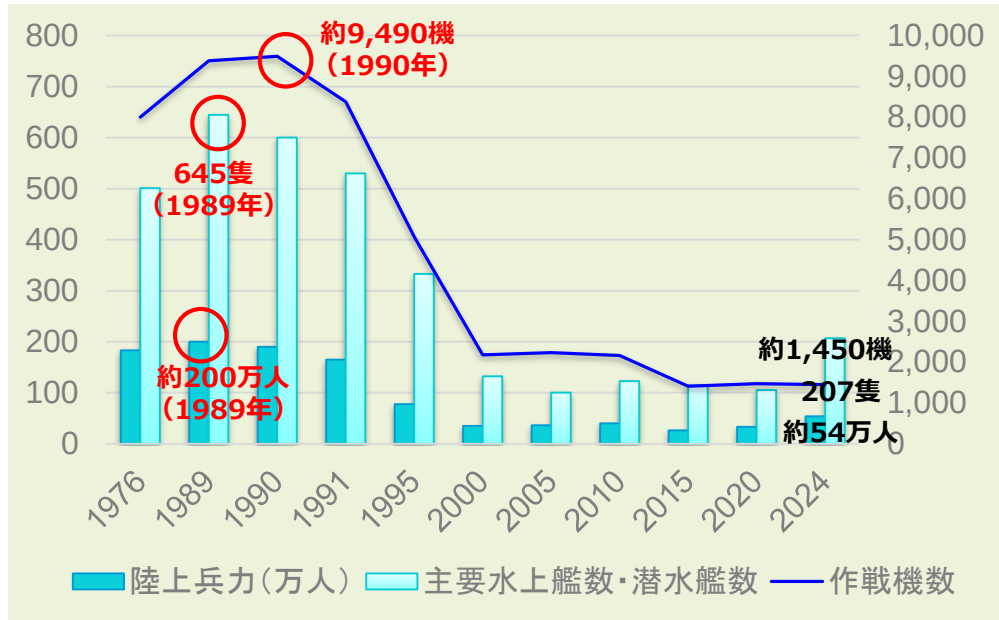
(資料源：防衛白書、Military Balance、
露連邦国庫「連邦予算執行報告」)

- 旧ソ連崩壊後、ロシア軍の兵力は**大幅に削減**(旧ソ連時代のピーク時と比べて概ね2割程度)
⇒師団中心から旅団中心の指揮機構へ改編する等、軍のコンパクト化を推進してきたが、ウクライナ侵略開始以降は、兵員数の増加や部隊編成の拡大改編を志向する動きを見せている。
- 低迷していたロシア経済は国際的な原油高を背景に2000年頃から成長を続け、**国防費を増加**
⇒17年度以降は横ばいで推移していたが、**ウクライナ侵略**開始以降、大幅に増加してきている。

(陸上兵力(万人)、
主要水上艦・潜水艦隻数)

兵力

○ 兵力のピーク (作戦機数)

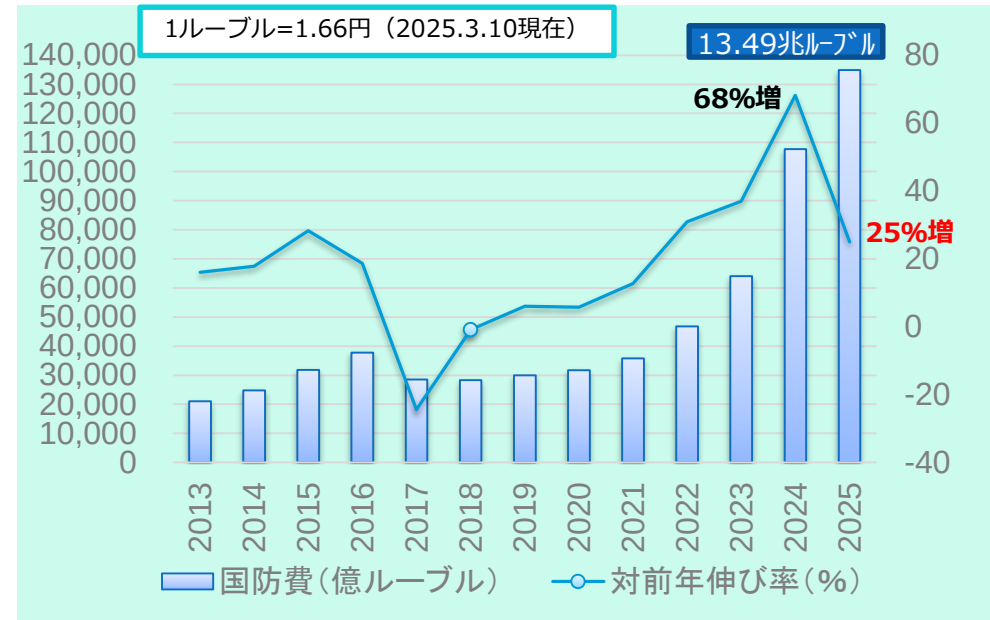


- (※1) 1989年：陸上兵力・主要艦艇数のピーク
1990年：作戦機数のピーク
(1976年：51大綱策定時、1995年：07大綱策定時)
- (※2) 「主要水上艦数」はフリゲート以上の排水量を持つ戦闘艦艇の数、「作戦機数」は輸送機、給油機等を除いた軍用機の数

国防費

(億ルーブル)

(対前年度伸び率、%)



- (※3) 2013年～2022年は執行額、2023年は9月1日時点での暫定予算額、
2024～2025年は予算案 (出典：露連邦社会院等)

極東方面・北方領土におけるロシア軍の動向

(資料源：防衛白書、統幕発表、露国防省発表、各種報道等)

- ウクライナ侵略後も、北方領土を含む極東での**軍備強化**、**中国との共同活動**など**活発な軍事活動を継続**
- **核戦力を含む相当規模の戦力が存在**するほか、欧州方面と同様に**新型装備への更新が進展**

演習・訓練

- 大規模演習「**オケアン2024**」(24年9月) (国防省発表)
 - ・兵員9万人以上、艦船400隻以上、航空機125機のほか、**中国艦艇・航空機が参加** (過去30年間で最大規模の海軍演習)
- **戦略核部隊演習** (24年10月) (国防省発表)
 - ・露西部プリセツク宇宙基地からカムチャツカ半島にICBMを、バレンツ海及びオホーツク海からSLBM (弾着地点不明) を発射

部隊・装備の動向

- 16年**択捉島及び国後島**、21年松輪島及び樺太、22年幌筈島に**地对艦ミサイルを展開**
- 20年12月に**択捉島及び国後島**、21年2月に**樺太**に**長射程地对空ミサイルを配備**
- 21年以降、太平洋艦隊は「**カリブル**」巡航ミサイルを搭載可能な水上・潜水艦を配備
- 23年10月、露太平洋艦隊で**4隻目となるボレイ級戦略原潜**が極東に到着
- 24年9月、露太平洋艦隊で**5隻目となるボレイ級戦略原潜**、**2隻目となるヤーセン-M級原潜**が、12月、4隻目となる**キロ改級潜水艦**が極東に到着



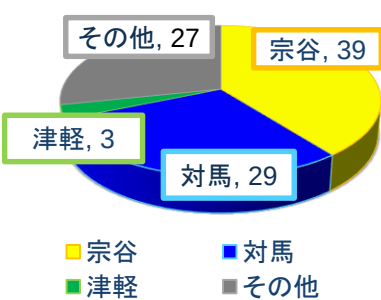
航空機の活動

- **ロシア機に対する自衛隊機の緊急発進回数**は、過去5年間で**年平均約217回** (2020年～2024年度)
- 19年以降、**中国との爆撃機による共同飛行**を日本海、東シナ海、太平洋、チュコト海、ベーリング海等で実施
- 9月、**ロシア軍機が一日に3度にわたり日本の領空を侵犯**

艦艇の活動

- 21年以降、**中露艦艇**はわが国周辺、ベーリング海等で**共同航行実施**
- 23年4月、ロシア海軍は、**艦艇約160隻、人員2万5,000人以上**が参加する、**太平洋艦隊への抜き打ち検閲**を実施した旨発表
- 24年9月、中国軍の演習「北部・連合2024」に露海空戦力が参加
- 24年10月～12月、太平洋艦隊艦艇が**東南アジア諸国**等の計5か国を歴訪し、インドネシア及びタイ海軍と初の2国間共同演習を実施

露海軍艦艇の海峡通過隻数 (24年度公表分)

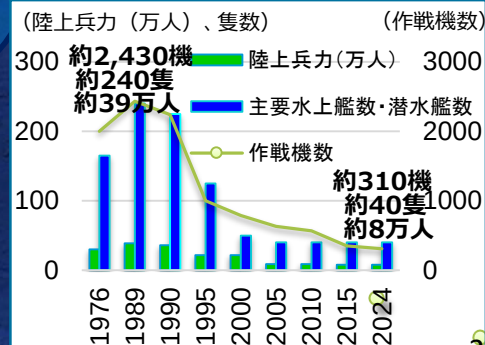


ロシア

極東ロシア軍の新型装備 (例)



極東におけるロシアの戦力の推移



(資料源：防衛白書、露国防省発表、IHS Jane's各種報道等)

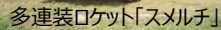
◆ 第18機関銃・砲兵師団が、主に着上陸防御を目的として択捉島及び国後島に所在（同部隊の規模は約3,500人）

(肩書は全て当時)

- ◆ 北方領土には、戦車、自走砲、多連装ロケット、地対空ミサイル、ヘリなどが配備
- ◆ 2011年2月、メドベージェフ大統領は、セルジュコフ国防相に対して、「クリル」諸島^(注)の装備の近代化に必要な措置を取るよう指示
- ◆ 2016年11月、地対艦ミサイル「バスチオン」及び「バル」部隊が、それぞれ択捉島及び国後島での任務に就いていることが、太平洋艦隊機関紙の報道により判明
- ◆ 2018年1月には択捉島の新民間空港が軍民共用化され、同年8月には同空港に戦闘機(Su-35S×3機)が配備された旨伝えられている。
- ◆ 2020年12月、択捉島及び国後島に地対空ミサイル(SAM)システム「S-300V4」(SA-23)が実戦配備された旨、ロシア国防省系メディアが報道※
- ※ 23年8月、同SAMが両島から消失している旨、各種メディアが報道

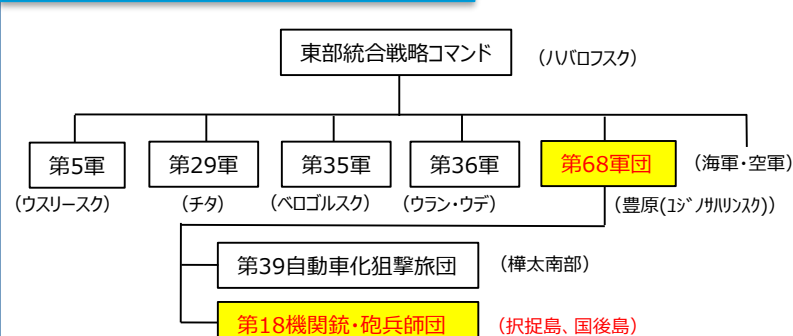
(注)露側の呼称である「クリル」諸島は、北方領土及び千島列島を指す。

択捉島・国後島における主な装備



第18機関銃・砲兵師団の位置付け

※東部統合戦略コマンドは
東部軍管区の各軍を統合運用



ロシアから見た北方領土・千島列島の軍事的意義

(資料源：National Interest、ロシア通信、Soviet Military Power 1989、Google Map等)

- ◆ ロシア軍にとって、北方四島・千島列島における軍備強化は、
 - ・戦略原潜の活動海域として重要な、オホーツク海を防御するとともに、
 - ・ウラジオストク配備の主要水上艦を中心とする艦艇の太平洋へのアクセスを維持していく上で重要。
- ◆ ロシアは、ウクライナ侵略による通常戦力の損耗を補う観点から、今後より一層、核戦力への依存を深めていくと考えられ、引き続き、新型戦略原潜の配備や、これらを防護するため、北方四島・千島列島における軍備強化等(いわゆる「バスチオン(要塞)」戦略(注))を推進していくものとみられる。

(注) 米国防省は、その報告書「Soviet Military Power 1989」等の中で、旧ソ連が自国領土に近い海域において、地勢も利用しつつ、陸海空軍のアセットにより防護する戦略原潜の活動領域を「バスチオン」と呼称。戦略原潜が配備されている露北洋艦隊及び露太平洋艦隊は、それぞれバレンツ海及びオホーツク海を中心に「バスチオン」を設定するとされる。

我が国周辺におけるロシア軍の配置



オホーツク海周辺におけるロシア軍の配備戦力（※1）						
	樺太南部	国後島	択捉島	松輪島	幌筈島 (ぱらむし るとう)	カムチャツカ 半島
地对艦 ミサイル	○(21年)	○(16年)	○(16年)	○(21年)	○(22年)	○
地对空 ミサイル	○	○(20年)	○(20年)	—	—	○
地上兵力	○	○	○	—	—	○
水上艦	—	—	—	—	—	○(※2)
戦闘機	— (軍用飛行 場あり)	—	○(18年)	— (軍用飛行 場あり)	—	○ (対潜哨戒機 も配備)

※1下表中の「○」は配備・展開あり、「—」は配備・展開なしを示す。カッコ内は新規配備・展開年または特記事項
※2「カリブル」搭載可能なステレグシチーⅡ級フリゲート「グレミャーシチー」は、22年ペトロボブロフスク・カムチャツキーに配備